

横浜市小学校社会科研究会

6 学年部会

研修会記録

第 8 号

令和4年12月7日
横浜市小学校教育研究会
会長 徳江 武司
横浜市小学校社会科研究会
会長 加藤 和之
同 学年部長 池田 翼

【提案日時】

11月2日(水)

提案 梅津 仁 先生(下和泉小)

【会場】

横浜市立 平沼小学校

司会 結城 巳貴 先生(浦島小)

記録 福田 恭祐 先生(磯子小)

1 提案内容 単元名

単元名「戦中と戦後の国民の生活と外国との関わり

～食の視点を加えて、自分事で捉える昭和の日本～

2 提案者より

「1回目の日米会議」を本時のはじめに考えるか、前時に考えるか。

本時のはじめの場合の流れ

- ① 学習問題についてそれぞれの予想をもとに話し合う。
- ② 第1回日米会議について、感じたことを出し合い、それらについて話し合う。
- ③ その後の「給食実施のための日米会議」の経過などの資料から学校給食がどうして実現できたのか話し合う。

前時の場合の流れ

(学習問題についての考えをノートにまとめておく)

- ① 学習問題について考えたことを出し合い、それらについて話し合う。
- ② その後の「給食実施のための日米会議」の経過などの資料から学校給食がどうして実現できたのか話し合う。

学習計画

日本はどのようにして豊かな生活を取り戻したのだろうか？

戦後、人々の暮らしをどのように立て直したのだろうか

日本中に食料がないのに、なぜ給食が再開できたのだろうか

戦後の学校給食が再開された理由にせまり、戦後の国の変化や人々の願いを考える。

(資料) 給食実施のための日米会議①(前時)

(資料) 給食実施のための日米会議②(本時)

2 協議会

○前向きな学習展開について

前時に「給食が再開できた！」と前向きな思考の展開にしていきたい。そうすることで本時に前向きな思考展開ができる。（前時で手立てを用意）

○後段の資料の多さをグループ学習で補うことについて

1 2 ページの資料を通して、子どもに気づかせたいところはどこか

授業者➡サムスの態度や言葉から人々が変わる様子（国を超えてなんとか日本の食を変えようとしている姿を捉えさせたい。）

考えさせたいところに資料をフォーカスする。

1 年後等、成果を提示すると驚きがありそう。

第 1 1 時の「日本国憲法があったから平和になった」

➡ここから給食にフォーカスするところを見通しておくといよい

○日米会議の資料について

資料の中で学校給食がどのくらいでどこまで広がっていったか、数値の資料が大切。

実際は、1954年公布なので時間がかかっている。

<講師の先生より> 川和東小学校 高畠 聡 校長先生

○本時で授業者が気づいてほしいところに焦点を当てた資料作りをするとよい。子どもにこの本時なら資料を通して、どんなことに気づかせたいか明確にする。

○1946年12月23日に給食が始まっている。1954年6月3日に学校給食法が公布されている。どこにどれくらいポイントを置くかを定めるとよい。例えば、広島で再開していたら子どもの驚きへとつながる。驚きへとつながるようなポイントを見つけ、資料を用意するとよい。

文責 佐藤 安世（北綱島小学校）